

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	治癒切除不能な悪性胃十二指腸狭窄(mGOO)に対する消化管ステントの治療成績の検討
研究責任者	聖隷浜松病院 消化器内科 江上貴俊
研究実施体制	江上貴俊、金谷和哉、榛葉俊太郎、佐藤友香、吉井元、大城恵吾、玉腰裕規、丹羽智之、志田麻子、遠藤茜、小林郁美、山田洋介、海野修平、小林陽介、鏡卓馬、木全政晴、芳澤社、室久剛、長澤正通、細田佳佐
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2022年 4月
対象者	2003年6月～2022年2月までに治癒切除不能な悪性胃十二指腸狭窄 mGOO に対して消化管ステントを留置した患者
研究の意義・目的	治癒切除不能な悪性胃十二指腸狭窄(mGOO)は QOL を著しく低下させる病態である。これに対し、緩和医療目的のステント留置術の役割は非常に大きい。従来は胃空腸バイパス術が行われたが、近年は低侵襲で早い症状緩和が得られることから内視鏡的十二指腸ステント留置が普及している。今回 mGOO に対するステント留置の有用性、偶発症に関して検討する。
研究の方法	対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行う。 症例の年齢、性別、閉塞機転となった病名、留置ステント内容、5分粥摂取までの期間、ステント留置前後の食事摂取状況、退院までの期間、留置から死亡までの日数、留置所要時間、事前胆管ステント留置の有無、再ステント留置の有無、合併症
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 消化器内科 (氏名)江上貴俊 TEL:053-474-2222(代表) 消化器内科外来 9:00～17:00 平日